



2024年6月28日

運賃改定の申請について

本日、当社線をご利用いただく際の運賃について、次のとおり改定を行いたい旨、国土交通大臣あての鉄道事業の旅客の運賃の上限変更認可申請を、国土交通省へ行いましたのでお知らせいたします。

2024年6月28日

運賃改定の申請について

本日、当社線をご利用いただく際の運賃について、次のとおり改定を行いたい旨、国土交通大臣あての鉄道事業の旅客の運賃の上限変更認可申請を国土交通省へ行いましたのでお知らせいたします。

1 運賃の改定を申請した理由

当社は、北海道における基幹的輸送機関として公共交通の一翼を担うべく、当社グループ一体となり鉄道輸送体系の整備・サービス改善、開発・関連事業の拡大等の増収努力とともに、業務運営の効率化や経費節減に取り組んでまいりました。

しかし、道内の人口減少や新型コロナウイルスの流行に伴うリモート会議の普及など新たな行動様式が定着したことによる鉄道運輸収入の減少、鉄道を維持するための修繕・設備投資に関わる費用の物価高騰による増加など経営環境は厳しさを増しています。さらに昨今の若年退職者の増加と人材確保競争の激化により、鉄道輸送に関わる労働力の確保についても非常に厳しい状況にあります。

当社は2024（令和6）年3月15日に「事業の適切かつ健全な運営に関する監督命令」を国土交通大臣より受領しました。これを重く受け止め、経営改善に向けた取組をより一層深度化及び加速化し、長期経営ビジョン未来2031及び中期経営計画2026に基づく施策や、地域の皆様と一体となった利用促進施策に北海道の公共交通を担う存在として取り組んでいく所存ですが、当社を取り巻く厳しい経営環境を踏まえると、現在の運賃・料金水準では輸送サービスを維持し、改善させていくことは難しい状況です。

以上のことから、徹底した経費の削減など当社の最大限の経営努力を前提として、物価高騰への対応、人材の確保、輸送サービスの維持・競争力の確保のため、関係者からの支援とともに、お客様にも費用の一部をご負担いただきたく、運賃の改定を申請いたしました。

2 申請の内容

当社の旅客運輸収入全体で、7.6%（消費税込）の改定となる申請をいたしました。

（1）普通旅客運賃

平均で6.6%（消費税込）の改定となる申請を行いました。

（2）定期旅客運賃

普通旅客運賃の改定相当分を反映させたくうえで、割引率を見直し、平均で18.9%（消費税込）の改定となる申請を行いました。

(3) 加算運賃

千歳線（南千歳駅～新千歳空港駅間）に設定している加算運賃は、変更いたしません。

(4) 料金

特急料金や座席指定料金などの料金については、改定を行いません。

ただし、新幹線の特別車両料金（グランクラス（A）料金のみ）は、車内サービスで提供する食品等の価格や人件費の上昇が課題となっていることから、このたびの運賃改定と同時期に、届出により料金の引き上げを行います。

(5) 主な区間の運賃改定額

別紙をご覧ください。

3 実施予定日

2025年4月1日

4 鉄道部門の収支の実績及び推定

（単位：百万円）

項目	2022年度 (実績)	2025～2027年度（3年間平均）	
		現行	申請
収入	110,482	123,770	127,519
原価*	143,708	161,420	161,420
差引	▲33,226	▲37,650	▲33,900
収支率	76.9%	76.7%	79.0%

* 申請上の計算方式によるものであり、実際の費用とは異なります。

※ 端数処理のため収入・原価の差分と差引が一致しない場合があります。

5 運賃・料金収入内訳

（単位：百万円）

項目	2022年度 (実績)	2025～2027年度（3年間平均）	
		現行	申請
定期外	34,935	43,834	46,184
定期	11,314	11,194	12,747
料金	12,332	16,209	16,056
合計	58,581	71,238	74,987

※ 端数処理のため各項目の計と合計が一致しない場合があります。

6 需要見通し

(単位：百万人キロ)

項目	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (推定)	2024年度 (推定)	2025年度 (推定)	2026年度 (推定)	2027年度 (推定)
定期外	1,055	1,252	2,032	2,553	2,497	2,490	2,478	2,476
定期	通勤	706	680	681	682	683	635	628
	通学	473	483	543	576	577	542	536
	計	1,180	1,162	1,224	1,259	1,260	1,177	1,164
合計	2,235	2,414	3,255	3,812	3,757	3,667	3,654	3,639
対前年度比	—	108.0%	134.8%	117.1%	98.5%	97.6%	99.6%	99.6%

7 設備投資実績・計画

(1) 設備投資実績と計画

(単位：億円)

項目	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (推定)	2024年度 (推定)	2025年度 (推定)	2026年度 (推定)	2027年度 (推定)
安全投資	232	239	315	184	210	235	230	270
その他(開発除く)	22	29	31	34	35	60	45	45
合計	254	269	346	218	245	295	275	315

(2) 今後の設備投資方針

①安全投資

- ・当社は「安全」を経営の根幹と位置づけ、「JR北海道 安全の再生」を安全の基本方針とし、「安全計画2026」に基づいて、「あくなき安全の追求」を続けます。
- ・鉄道の安全確保の前提条件である設備の健全性確保のため、老朽化した地上設備や車両の更新・修繕等を継続して計画的に進めます。
- ・地球規模の気象変化により、自然災害の頻発化・激甚化が脅威となってきたことから、高架橋の耐震補強工事、落石・土砂崩壊対策のほか、排雪モーターロータリー等除雪設備の増強を行い、自然災害の対応力向上に取り組みます。
- ・運行管理システム・変電所等の基幹システムや車両検修機器等の計画的な更新により、お客さまに安全な列車運行を提供し、異常時からの復旧能力を強化します。

②省力化投資

- ・安全の確保を前提に、効率的で働きやすい作業環境を実現するため、業務の省力化、システム化の取組を実施します。

③サービス向上

- ・計画的な車両の更新を行うほか、バリアフリー化を推進します。

8 これまでの経営合理化の状況及び今後の取組

当社ではこれまで鉄道事業の効率的な運営を目指し、保有車両数の削減や使用頻度の低い副本線・側線の使用停止・用途変更、極端にご利用の少ない駅の見直し、駅の業務委託化・簡易委託化の拡大、利用実態のない踏切の廃止等を行ってまいりました。引き続き効率的な運営を目指し、様々な取組を進めてまいります。

9 利用者サービスの向上策

(1) 新千歳空港アクセス輸送強化

- ・札幌～新千歳空港を結ぶ快速エアポートの車両更新により定員の増加を図ります。

(2) 駅および駅周辺の整備

- ・駅のバリアフリー化を推進し、利便性向上を図ります。(発寒中央駅、登別駅)
- ・地域の拠点として、駅舎の改修や駅前広場、自由通路の整備など地域の皆様と協力しながら取り組みます。

(3) 通学定期券購入時の資格確認の簡略化

- ・通学定期券を購入する際に必要となる通学証明書、学生証などの提示を、入学後初回の購入時のみとし、在学期間中の継続購入時は資格確認を簡略化します。
- ・指定席券売機などでも通学定期券を購入できるようになり、新年度や新学期の窓口混雑が緩和されます。

(4) 精神障害者割引の新規導入

- ・新たに精神障害者割引を導入し、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方に対する運賃の割引を行います。

(5) 野生動物に対する取組

- ・線路内に侵入する鹿や稀少猛禽類といった野生動物に対応するべく、衝突防止対策として鹿止め柵の設置、減速運転を行います。

10 情報へのアクセスについて

(1) 運賃、時刻等に関するお問い合わせ先

JR 北海道電話案内センター 011-222-7111 (通年／ 6:30～22:00)

(2) J R 北海道ホームページ

<https://www.jrhokkaido.co.jp/>

別紙 主な区間の運賃改定額

■初乗り

	(現行)	(改定)
普通	200	210
通勤定期	6,600	7,690
通学定期	大学	4,100
	高校	3,730

※定期は1箇月定期の運賃を記載

	(現行)	(改定)
普通	440	470
通勤定期	14,100	16,750
通学定期	大学	11,440
	高校	10,430

■札幌エリア（札幌～近郊主要区間）

	(現行)	(改定)
普通	750	800
通勤定期	24,170	28,660
通学定期	大学	13,060
	高校	11,900

	(現行)	(改定)
普通	340	360
通勤定期	10,980	12,920
通学定期	大学	8,940
	高校	8,150

	(現行)	(改定)
普通	970	1,040
通勤定期	29,040	34,880
通学定期	大学	14,850
	高校	13,610

	(現行)	(改定)
普通	340	360
通勤定期	10,980	12,920
通学定期	大学	8,940
	高校	8,150

■小樽エリア

	(現行)	(改定)
普通	440	470
通勤定期	14,100	16,750
通学定期	大学	11,820
	高校	10,770

	(現行)	(改定)
普通	1,150	1,230
通勤定期	34,290	41,030
通学定期	大学	18,020
	高校	16,450

あいの里
教育大

岩見沢

札幌

小樽

手稲

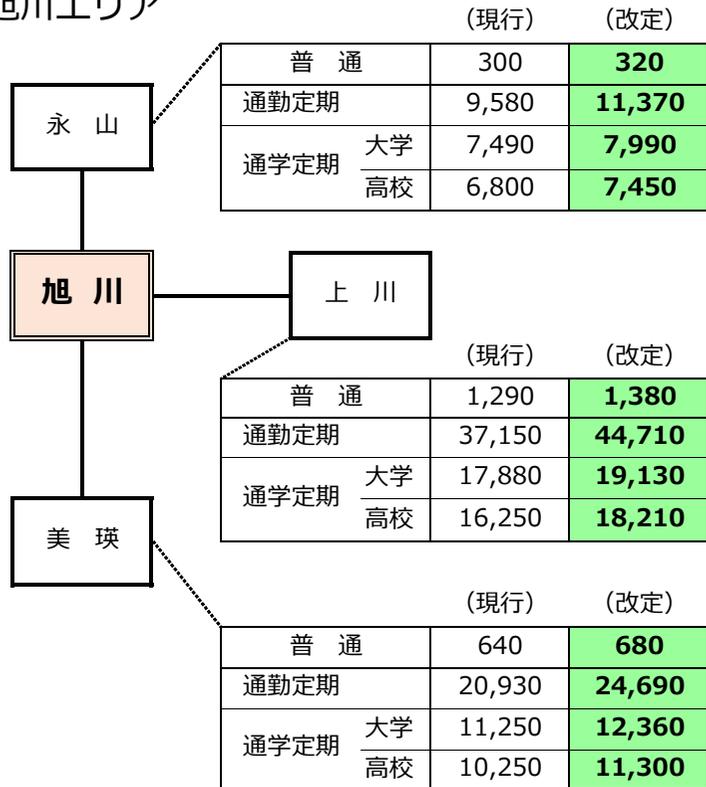
新札幌

新千歳空港

余市

小樽

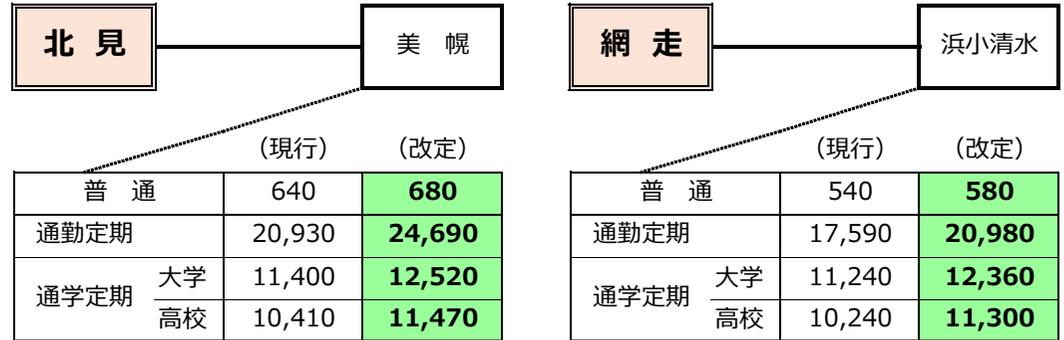
■旭川エリア



■函館エリア



■北見・網走エリア



■帯広・釧路エリア

